

学校教育の改善のために、重点項目として取り組んだものについて、学校評価アンケートをもとに結果をまとめました。

項目	具体的目標	重点項目まとめ
研究	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルを基に算数の学力の定着を図る。D層→C層→B層→A層のように引き上げることを目指す。(基礎学力の向上) 表現力に関する児童アンケート項目の好意的数値のUPを目指す。(表現力の向上) 	<p><基礎学力の向上> 2年生から6年生(17学級)の東京ベーシックドリルの結果を見ると、1学期から2学期にかけて15学級がそれぞれの層から上の層への引き上げを行うことができました。しかしながら2学級がB層からC層へ下がる現象が見られました。学年で家庭学習の内容を見直し、時間(量)と内容(質)双方を確保・改善していくことが課題です。計算や漢字の書き取りなどの繰り返し練習が必要な学習活動についてはICT機器も活用しつつ、朝学習などの時間を活用して確実に学習内容が定着するようにしていきます。また、評価テストの見直しに十分な時間を取ることで、学びを自己調整する力を全学年で伸ばしていきます。</p> <p><表現力の向上> 「自分の考えをペアやグループの相手にわかりやすく伝えている」は85.4%(前回比4.5ポイント上昇)と「自分の考えをみんなの前でわかりやすく説明する努力をしている」は73.9%とどちらも自分の考えを他者に伝えることに関する項目です。算数の授業でペアの友達や全体の前で考えを発表する活動を継続してきた結果が実を結んだと言えます。対話交流の項目では「友達との話を学習を理解することに活かしている」は93%と前回比で4ポイント上昇しています。学習内容が複雑化する中でも、友達同士の対話を重視することが学習の理解につながるという自己効力感が育っていることが分かります。本校で続けてきた「活発な対話」への取組は、児童の対話意識を向上させ、困難な問題にも自力で解決していこうとする力の維持(前回比0.5ポイント上昇)へとつながっているとと言えます。</p>
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> あいさつの徹底90%を目指す。 休み時間や下校後のかかとそろえの徹底90%を目指す。 次の授業の準備の徹底90%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「挨拶を自分から進んでできていますか」の項目で「進んで行えた」と答えたAB層の児童は、90.5%という結果でした。CD層が約10%いることから、月初めに「あいさつ5項目」の確認をすることや毎月のあいさつ運動を着実に実行し積み上げていくことが大切だと考えます。 「靴箱では、くつのかかとをそろえていますか」の項目で1回目のアンケートでは意識して行っていたAB層の児童は96%でしたが、2回目のアンケートでは92.7%で3.3%減少しました。 「次の授業の準備をしてから休み時間をすごしていますか」の項目で1回目のアンケートでは意識して行っていたAB層の児童は94.1%でしたが、2回目のアンケートでは80.2%で13.9%減少しました。2学期に行事が多かったことから、時間を守りながら行動することの難しさや意識し続けることの難しさがあったようです。今後も継続的な声掛け及び指導が必要と考えます。
体育	<p>「体育の時間や休み時間では楽しみながら運動している」の項目で、肯定的な意見を100%にする。</p>	<p>「体育の時間や休み時間では楽しみながら運動している」と感じているAB層の児童は90%います。しかしながらCD層が10%ほどいることから、「楽しみながら運動する」ことについて短縄のチャレンジカードに挑戦することや、長縄で前原小の記録に挑戦する企画を提示することが大切です。取組を継続することで、集団で挑戦する・集団で楽しむことを実感できるのではないかと考えます。また、運動が苦手と感じている児童への聞き取りを行い、どのような場面で楽しむことができていないのか分析し対策を練る必要があると考えます。</p>
ICT	<ul style="list-style-type: none"> タブレットの持ち帰りを段階的に行う。 ICTを活用した家庭学習の習慣化を図り、100%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中のICTの効果的な活用を、9割の教員が取り組んでいます。2学期からタブレット端末の持ち帰りを計画的に行っています。 発達段階に応じて家庭学習としての実施方法は異なりますが、20学級の8割が習慣化のための取組を行っています。長期的な見通しをもち、引き続きタブレット端末の持ち帰りを推進し、家庭学習の促進を図っていきます。
特別活動	<p>クラブ活動等で意図的・計画的に異学年での交流機会を設け、A・B層合わせて90%を目指す。</p>	<p>「クラブ活動では、他の学年と交流しながら、積極的に活動できていますか」という項目について好意的に活動できたと答える児童AB層が88.8%という結果でした。C層の10%をAB層に引き上げるためには、ルール説明等の方法を一緒に考えていき、誰でも参加しやすいクラブ活動にしていく必要があります。</p>
周年行事	<p>周年に関するクラスによる取組やけやき祭での60周年モニュメント制作などを通して、前原地域が好きという児童90%を目指す。</p>	<p>前原地域のことが好きかという質問に対して、AB層の児童は93.2%であり、肯定的に思っている児童が多いことが分かります。これは、地域や地域人材を活用した学習を進めているだけでなく、60周年行事の一環として、集会活動や学級活動などで前原小学校や地域を大切にする取組を行っていたりすることが関係していると考えられます。しかし、CD層の児童が6.8%いることから、今後の行事等での児童の関わり方やその意義について丁寧に説明していく必要があります。</p>

★学校評価の全項目の結果については、ホームページをご覧ください。